

令和5年度 第3回 学校運営協議会（議事録）

I 日 時 令和6年2月14日（水） 10:00 ～ 12:00

II 場 所 静岡県立浜松湖東高等学校 大会議室

III 出席者（委員、敬称略）

新井立夫（文教大学教授） 新村貴文（神久呂地区社会福祉協議会会長）
神間智博（本校同窓生） 村松俊司（神久呂協働センター所長）
山口権治（第一学院高等学校顧問） 鬼石直也（本校後援会長）

欠席者

鈴木恵子（認定 NPO 法人魅惑的倶楽部理事長）

本校職員

副校長（渥美 真人） 教頭（山崎 修司） 事務長（諸井 康恵）

IV 内 容

1 副校長（校長職務代行者）挨拶

本日は御多忙の中、本会に御参集いただきありがとうございます。

昨年8月30日に、小林校長が亡くなり、職務代行を命ぜられたときは、7か月もの期間をどうしたらよいのかと不安ばかりでしたが、皆さんに助けられながら、なんとか残り1か月強となりました。しかしこの後、卒業式、入試、人事異動、校内人事と大変なことが山積しています。引き続き相談にのっていただき、ご協力いただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

生徒も教員も落ち着いて授業、学校生活を過ごしています。現在2年生の間でインフルエンザの流行が見られますが、学校閉鎖するほどではない状況です。

本日は委員の皆様にも、外部評価をいただきます。よろしくをお願いします。

2 議事（進行：会長）

(1) 今年度の教育活動

○教務（副校長から）

- ・ 1, 2 学期の欠席率 1.8%、出席状況は良好であるが、1 年生の遅刻が増えている。学力も低下しており、指導の在り方、授業や生徒の接し方を工夫していく必要があると感じている。
- ・ 転学者 1 年 4 人、2 年 2 人、3 年 2 人。1 年生は 1 学期から不登校傾向の生徒。いじめやトラブルはない。
- ・ 課題や自宅自習のために「スタディサプリ」を利用している。さらに連絡事項や課題提出等に「Google Classroom」も活用している。

○生徒（副校長から）

- ・ 体育祭、球技大会等学校行事はコロナ前のように、通常通り実施した。3 年生は入学以来コロナ禍だったが、ようやく最後の学年で様々な活動ができた。
- ・ 生徒の生活態度は落ち着いている。生徒指導 2 件のみ。

○進路（教頭から）

- ・ 現 3 年生は定員割れした学年であり、学力低下を心配した。特進クラスを少人数編成とするとともに、1 年次から文理の特色を出して指導してきた。
- ・ 全体の進路状況については例年と遜色ない。短大を含む大学進学 7 割、専門学校 3 割弱。就職若干名。

- ・理系特進クラスでは、近年合格者が減っている理工系大学に合格している。
- ・学校推薦型選抜において、専願でないところが増えており、使い方を工夫している。いわゆる「滑り止め」が確保でき、その後は本命への対策に全力を注いでいた。
- ・本校生徒は、新教科「情報」は気にしなくてよい。これまで通り、5教科または3教科の対策が大事。

○学校運営・探究活動等（副校長から）

- ・令和2年度から「探究プロジェクト」を行っている。おもな活動は「コトバショ」と「コーヒーフェアトレード」「ジェンダー」。
- ・総合的な探究の時間では、1年生で「ソーシャルチェンジ」2年生で「コーポレートアクセス」、3年生で「課題研究」を行っている。3年生の発表は立派なものである。
- ・別紙に表彰等の状況をまとめた。よく頑張っている。

（委員）小中学校ではS S Wが入っているが、高校の現状はどうなっているのか。

（副校長）S Cが月に1回以上来校。ほとんど予約で埋まっている。S S Wは必要な時に拠点校に連絡して相談にのってもらう形。いずれも常駐ではない。S C、S S Wとも予算が足らずに十分ではない。

（委員）以前は生徒同士で解決できたはずのトラブルが、当人同士でできなくなっているのではないか。S CやS S Wに頼ることも必要だが、頼りすぎて、解決する力が失われている気がする。

（委員）他人とつながれない子が増えている。

(2) 学校評価アンケート集計結果報告（教頭から）

- ・昨年に比して、今年度は多くの数値が上がっている。通常通りの学校生活が送れたこともあるが、教員も頑張ったと思う。
- ・学年によって違いがあるので、分析し、必要な対応はしていく。
- ・厳しい評価結果や自由記述の内容を全職員で共有し、謙虚に受け止め、改善に取り組んでいく。

(3) 学校関係者評価（副校長から）

- ・成果目標とアンケート等の結果数値から自己評価した。
- ・重点目標としている内容に関するアンケート結果の数値が上がって良かった。
- ・研修については、次年度から内容をより実践的なものにするため「B」とした。
- ・広報について、新設した情報D X課がホームページに Instagram を開設し、常時更新できている。今後は、生徒の投稿を受け付ける予定。
- ・設備の老朽化は、予算的に対応しきれない。
- ・委員の先生方には、学校関係者評価をお願いし、それを学校でまとめて県へ報告する。

(4) 意見交換（委員から）

- ・生徒の様子を見る機会が少なく、資料を見て評価するので、難しい。
- ・大学等進学者が7割しかいないのは、湖東高校OBからすると残念。
- ・自転車通学生のヘルメット着用率が低い。命に係わる問題。
- ・学校で強制すると、教員の指導負担が増える。
- ・生徒が「ヘルメット着用向上委員会」のようなものを作り、自分たちで考えさせるとよい。
- ・普通科としてどのような特色を出していくのか考える必要がある。

- ・「探究」を特色として具体的なことを打ち出すのがよい。
(副校長)「総合的な探究の時間」と「探究プロジェクト」が別建てになっているので、組織を統合して学校として取り組んでいきたい。
- ・地域の「子ども会」は企画・運営も子どもたちがやる。同様に生徒たちに任せることで、自主性が身に付く。
- ・校内の課題を生徒主体で考えさせ、動かすとよい。
- ・普通科の特色はカリキュラム編成では出しにくい。
- ・「探究」を全面に出し、すべての授業で取り組み、成果物をコンクール等に応募するようにしたらどうか。
- ・教え合う授業展開を通して、教えることの面白さをすることができる。
(副校長) 研修で取り組んでいるジグソー法がそれを目指している。
- ・「楽しんで学ぶ」ことばかりが、強調されすぎている。耐える力も必要。苦しいことや困難を乗り越えて味わう充実感、豊かに悩むことも大事。
- ・「探究」に答えを求める必要はない。過程を評価してほしい。

3 今年度の日程

第4回を別紙案内のとおり3月15日(金)13:00にお願いします。

内容は令和6年度学校経営計画書の協議。